

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292100031		
法人名	(有)弦観光		
事業所名	グループホーム 吉岐の郷		
所在地	長崎県吉崎市石田町筒城東触1840—3番地		
自己評価作成日	令和2年 2月 11日	評価結果市町村受理日	令和3年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設では、集団生活が強いられる中でも、いかに自分らしく生活できるかという所に力を入れています。具体的にデートプランという取り組みを実施し、一人の時間を確保して、担当の職員と一緒に、自宅に帰ったり、買い物したり、墓参りや、掃除などその人だけのケアを実施しています。また、季節の行事や、食事を積極的に取り入れ、おせち、恵方巻、花見弁当、BBQ、うなぎ、お寿司など生ものや、アイスクリームなども基本的には全員に提供しています。地域とのつながりも重視し、地域の公民館行事にはすべて参加を心がけ、施設の夏祭りには、無償で地域の方を招待して、カラオケや、抽選会など実施しています。吉岐の介護業界の取り組みにも積極的に参加し、小学校の施設への受け入れ、訪問しての介護の魅力や、福祉車両での介護体験なども取り組んできました。施設の小さくて小回りの利く柔軟な対応は今後も取り組んでいきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、吉岐空港にほど近く自然豊かな広い敷地内に位置している。代表が、親孝行のために始めたという設立の経緯があり、理念には利用者への奉仕の精神が見てとれる。理念の作成には、全職員が参加しているため、全員が共有しており、新人職員には、研修や介護の現場で管理者や先輩職員を通して、その思いを伝え、実践に繋げている。職員の離職はなく、休憩時間の確保、有給休暇の取りやすさ等、職員と代表、部長、施設長との風通しの良い関係から働きやすい職場環境であることが窺える。事業所は、昨年度からデートプランと称する個別支援に注力している。デートプランは、本人の希望が叶う日であり、職員と二人で外食に出掛けたり、買い物したり、気になっている自宅の掃除や墓参りなど多岐に渡る。また、自宅や病院までの送迎等、家族への心配りもあり喜ばれており、利用者に関わる全員が笑顔になる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそって一人一人へのケアに心がけ、個別対応を重視している。地域との関係も年々深まっている。	代表が、親孝行のために始めたという設立の経緯があり、利用者への奉仕の精神が理念3項目に反映している。理念の作成には、全職員が参加しているため共有している。新人職員には、研修や介護の現場で管理者や先輩職員を通して、その思いを伝え、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館員行事に積極的に参加し、地域の方に声をかけてもらえるまでになってきた。地元消防団、町づくり協議会などとの交流ももち、推進会や末祭りでの利用者に対する、地域の方の理解も深めている。	施設長は公民館や青年会のメンバーであり、地域での行事の参加、施設における行事への招待など相互による交流が盛んである。更に、地元消防団や町づくり協議会等との連携、近隣住民による畑作業の協力など、地域の一員としての地位を確立している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の公民館長、民選委員が参加している。また昨年消防団の方や、夏祭り時の地域の方と、利用者様との交流もあり、地元の方の理解も深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月のイベント、反省や事故、ヒヤリの報告を中心に行っている。いろいろな角度からの意見をいただき、それを生かして活動の場が広がっている。	今年度は新型コロナ禍で開催出来ない時期は書面会議とし、報告を全委員に郵送し規程の年6回を行っている。報告は入居者の状況や行事、ヒヤリハット・事故報告である。前回の気づきである議事録の整備は、参加者からの意見や質問を記載しており改善していることが確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加を頂き、定期的な意見交換をしている。また、吉岐市内コロナ禍の対応や、災害時の避難先、避難状況など相談することができた。	県の依頼で島内の小学生の見学を受け入れている。また、高校生に介護の魅力を講話するため若手の職員を派遣している。更に、徘徊ネットワーク訓練への参加、町づくり協議会や介護人材確保育成対策地域連絡協議会に参加し協力するなど、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、虐待の勉強会も時期をみて実施している。拘束についてもそもそも考えの中に実施するという考えはない。玄関の施錠は昼間は行っていない。	年2回研修を実施している他、接遇研修も行っている。センサーマットを使う場合は、使用理由を家族に説明し同意を得、毎月のカンファレンスで検討している。「家族がいてもその言葉を使えるか」というガイドラインを基に、言葉による拘束もしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についても、勉強会で定期的実施している。施設では利用者の行動に「あー」となった時などは交代して対応したり工夫も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については、毎月カンファレンスを行い残存能力を大切にしてい取り組むようにしている。成年後見人制度については、その機会にそって取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の契約時、または料金の改訂時など、家族に確認、サインを頂いている。をしている。前回の料金改定時には意見を言われることもあった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の方から意見は言いやすい雰囲気を作っている。クリーニングや、受診の送迎、書類の申請など対応できた。	契約時に苦情解決の流れや苦情箱の場所等説明している。家族は意見箱に投函することなく、直接職員に伝えている。聞き取った意見や要望は記録し、事業所で検討して回答している。年2回発行するホームだより“えがお”は、利用者の笑顔を見ることができ、家族に好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、部長も毎日顔を出され、話す機会は多い。イベントや、個別プランの相談、コロナ禍での島外への移動、台風、積雪時の対応や送迎など対応して頂いた。	職員は要望等を日頃から代表に伝えている。代表は職員が働きやすい職場環境となるよう、夜勤者と別に宿直者を置き、緊急時等にサポートできる体制を整備している。代表は職員の支援の質の高さを認めており、アットホームな雰囲気である。夜勤専用の携帯電話の要望があり、現在検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じて、賞与には反映している。また、職員の就業意欲は大切にしており、外部の研修への協力や、職員の昼食の提供など、モチベーションが下がらないようにして頂く配慮があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは、コロナ禍で積極的な参加が出来なかったが、ウェブでの参加など、少ないながらも取り組むことができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流や研修は今回はコロナ禍で行えなかった。ただ、吉岐の介護人材育成ネットワークの活動には職員や、福祉車両の提供、介護のYouTubeチャンネル配信への参加など少なからず積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の部屋のテレビの修理など行えた。また個別のデートプランを活用して、利用者様のやりたいこと、行きたいところ、食べたい物など、聞き出し、家族も含めて取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族から家庭での様子などを言われ入所時に手を取るんじゃないか？という相談が多かった。その点は施設では心配ない点をお伝えし、安心していただけた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に受診などは、送迎や付き添いも含め柔軟に対応している。何かあれば、家族と相談してかかりつけ医以外でも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で、料理や、洗濯など生活習慣も共にしている。また、日常の食事なども、利用者様の希望なども聞きながら好き嫌いを取り入れたメニュー作りに取り組んだりもしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、受診や往診、家族会やおむつ類の補充時など、定期的な交流を心がけている。また、デートプランの主旨も理解して頂き、一時的に帰宅したりもしている。広報誌も喜んで頂けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新規の元気な方などは、正月の外泊時なじみのお店で買い物をしたり、美容室に行ったりされた。また、かかりつけの病院へ行くと、「あら一元気やった？」となつかしむ声も聞かれて本人様も嬉しそうだった。	新型コロナ禍以前は、家族や友達が訪れ、居室でゆっくりと会話したり、正月に帰宅しておせち料理を味わい、事業所に戻る利用者もいる。現在は、新型コロナ禍の様子を見ながら、希望に沿って、髪染めに美容室に出掛ける予定を立てている。また、島外の家族に電話したり、年賀状を送る利用者を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のつながりがみられ、活気も出てきた、それに伴ってトラブルもあるが、それだけ関りが出来ている証拠なので大切に支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所者は体調不良がほとんどだったが、入院時も定期的に代表や部長が様子を見に行ったり、亡くなった後の葬儀の段取りもこちらで行った事例もあり、最後まで対応することができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	元気な方からは、外泊の希望を聞いたり、お部屋での生活での不足しているものなど支援している。定期的な外出も支援していきたい。	職員は利用者との会話から本人の希望を聞き取っている。事業所は、利用者が毎週1日だけ帰宅することを支援し、家族の協力の下、一泊して戻ることを試している。事業所では、デートプランと称する個別外出支援を行っており、計画を立て本人の希望に沿って出掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食に関する生活習慣は対応がしやすいために、話をしながら対応している。お部屋に関しても好きな花を購入して育てて頂いたり、少しではあるが取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで、一日の活動、有する力量など共通理解をし、その人の残存能力に合わせた計画に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファでは、課題のある方はそれに取り組む、ADLの高い方については、質の高い生活を目指したケアに取り組んでいる。コロナが落ち着けば、外との交流なども取り組めたらと思う。	利用者一人ずつに担当職員を配し、担当者を中心にケアプランを作成しており、毎月のケアカンファレンスにて見直しを行っている。ケアプランの短期目標の内、最優先の目標を月に一つを設け、記録して、利用者がよりよく暮らすための課題を明確にしている。ただし、本人・家族の意向について変化が確認できない。	本人・家族の意向を、ケアプランに反映するために、日々の会話の中から聞きだす等、工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアに関しては、1項目ではあるが、毎日その実施記録をとって、カンファレンス時に検討している。なるべく同じケアで、評価に違いが出ないように取り組んでいきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に一人暮らしの方へは柔軟に対応していきたい。書類作成や、必要な物の購入を行ったり、その都度対応してあげたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	芋掘り際には、保育所の子もたちと交流しながら地域の民宿の畑のお芋を掘らせて頂いた。買い物なども、地元のスーパーに急な注文を依頼したり、災害時には町づくり協議会の方に何か被害があれば連絡していただけたら協力しますとのお声もいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は施設入所前のかかりつけ医を利用し、連絡は施設の様子など書いたものを渡しやり取りをしている。病院までの送迎も施設側で対応するようなシステムに今年度より変更している。	基本的には、入居前からのかかりつけ医を受診している。家族の要望が多かったことから、病院への送迎は事業所が行っており、病院に家族が訪れる場合は、送迎のみ支援している。また、事業所での日々の様子を文書にして主治医に渡す等、かかりつけ医との関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はGHには在中していないが、デイサービスの看護師の方に相談する機会はある。症状に合わせて病院を変えて、柔軟に対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、経過や、治療方法、退院時のADLなど、連携室との連絡を密にとれている。連携室の方とは施設の日常や、イベントなどに招待したり、広報誌を送って施設の様子も理解していただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時に、御家族の方には看護師や、医師が常駐していない点を理解して頂き、早期の受診にて対応していることを伝えている。今回、お亡くなりになる前は、入退院の繰り返しになった方もいらっしゃったが、病院、施設、家族と交えて話しながら最後まで生活して頂けたと思う。	入居前に、家族に事業所で出来ること出来ないことの説明し、更に夜間緊急時に備え、地域で受入れ可能な2つの病院のうちどちらかを選択してもらっている。病院、家族、事業所で相談し、事業所から病院に移行する時期を見定めるなど、家族を交えたチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、施設内では連絡系統としては行ったが、消防署と連携しての応急処置は、コロナ禍もあり、非常に開催しづらい見送った。今後もう少し落ち着いたら実施予定としたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	今年度は、通常5月開催の夜間避難訓練が、コロナの影響で7月に開催したこともあり、水害の避難訓練も実施していません。地元消防団の方には実際に誘導もして頂きました。	年4回避難訓練を実施、内2回は消防署立会いで実施しており、消防機器の事業所も点検を兼ねて年1回参加している。夜間、自然災害、原子力発電所事故を想定した訓練も実施しており、訓練には、全職員と利用者その他、消防団も参加するなど地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは特に気をつけている、入浴拒否や、帰宅願望がある方もいらっしゃるので、気分を損ねないように、その都度注意して対応している。	居室ドアの窓には布を掛け、室内のパッド類やポータブルトイレにも目隠しするなど、本人のプライバシーに配慮していることが見てとれる。事業所では、利用者の呼び方を、家族に了承を得て名前にさん付けとしている。写真掲載に関する家族の同意書を保管すると共に職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事面や、イベント時の内容、おやつなど、ご利用者様と一緒に考えて作り上げるものも多くあり、よく話してくださる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケや、DVDの内容が、歌なのか、漫談なのかの選択など、する前に、やろうか？などと促して開始することも多く、ご利用者様から「いまはよか」と言われることもあった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にてできる方は、お出かけとなると、身だしなみを自分でされるが、できない方に関しては、職員側でお化粧や、正装を心がけて外出したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も、ご利用者様と話して決めることもあり、おせちや、忘年会のメニューなどはリクエストを聞くことができた。準備、片付けも手伝ってもらったことも多い。	全職員に調理当番が廻っており、利用者の嗜好を把握し、献立を基に料理している。ミキサー食、トロミ食等も本人の状態に合わせて提供している。テーブル拭きや野菜を切るなど利用者も手伝っており、料理に携わることで日常生活の実感を得ている。季節の行事には相応しい料理で職員も一緒に祝い、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、一人一人に合わせてつぐ量を決めている。また水分はなかなか進まない方には、牛乳、ヨーグルト、ゼリー、ジュースなどで代用して飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る方は自分でして頂き、不十分な所だけ介助している。口腔ケアスポンジや、クルリーナブラシなどの使用もしており、義歯の合わなくなった方には、訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、訴えがない方は定時での誘導をしているが、排泄パターンの違いがあるために、時間間隔は個々に応じている。1名をのぞいて、現在トイレでの対応をしている。	職員は排泄チェック表に記しパターンを把握して、日中はトイレでの排泄を支援している。自らトイレに行く利用者もいる。夜間ポータブルトイレを使用した際は、その都度洗浄しており、清潔保持に努めていることが見てとれる。排泄の失敗はほとんどなく、利用者の快適な生活が確保できていることから、職員が丁寧に支援していることがわかる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い物や、水分、ヨーグルトなどをなるべく多く提供し、自然排泄に努めている。それでも便秘の方はいらっしゃり、医師と相談して、薬の使用を、頻度、量を調整しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、イベントや、受診、面会などその日の都合に合わせて柔軟に対応している。今後、夏になり、汗などをかかれて入浴をしたいという希望があれば可能であると伝えていきたい。	入浴は、毎日準備しており、利用者は週2回入浴している。事業所では、一人ずつ湯を張り替えており、気持ちのいい入浴となるよう努めている。入浴拒否の場合は、時間を置いたり、散歩に誘って浴室まで移動したり、無理強いせずに支援している。ただし、入浴以外の日に清拭や衣類の交換等は行っていない。	入浴は利用者のリラクスの時間であると同時に清潔保持の目的もある。週3回の入浴支援について検討、取組みが望まれる。また、入浴日以外の日も、清拭や衣類交換などを行い、利用者が快適な生活となるよう取組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休むタイミングや、着替えたり、薬の時間を調整したりと、違いが見られる。ご飯の後などは、ソファにて座ったり、休んだりされている方も多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、特に眠剤に関しては、その効果や効きすぎたり、他の方に飲ませるとどうなるかなど、理解を深めている。便の薬とともに状態を見ての内服を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の手伝いとして、その人の能力に合わせたもので対応している。また、飲み物を自動販売機で買ったり、刺身などを食べられない方へは別のものに対応したりしている。春になれば、外の作業なども取り組めたらと思いたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な希望では対応が難しいが、昨年からの取り入れたデートプランを利用して、本人の希望を聞き、外出や、家族の協力のもと、自宅に帰ったり、墓参りに行ったりという形で、現在は個別に対応している。	月に1回、一人ずつのデートプランは、新型コロナ禍であるができる範囲で行っている。減多に帰ることのない自宅に戻り、親族との面会を果たすなど、同行した職員もデートプランの特長を感じている。それ以外では、病院通院にて車中から景色を眺める程度であり、日常的な外出は行っていない。	事業所は広い敷地内にあり、日光浴や外気浴が可能であると思われる。戸外に出ることによって気分転換を図る効果もあるため、今後の検討、取組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方は現在も現金を所持されている。自動販売機でジュースを購入されたり、外出時に買い物を買われたりも見られる。その他の方もお小遣いとして御家族様より自由に使えるお金を預らせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望というのは聞かれないが、希望があれば可能である。手紙はコロナ禍もあり、定期的に送られる家族や、施設側からも年賀状や広報誌など定期的に発信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日掃除をし、清潔を保っている。壁には写真や、イベントの思い出などを貼り生活感、季節感なども表している。最近では外出も難しく、花を飾ったりも時々している。	広いリビングには、テーブルセットやソファがあり利用者が思い思いにくつろいでいる様子が窺える。玄関、廊下、リビングと職員による掃除、換気が行き届いており、居心地のいい空間となっている。廊下には、イベント時の写真を掲示し、利用者との話題づくりにも役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に部屋とデイルームを行き来される方も多い。基本的には寂しいのもあるのか、みなデイルームで過ごされる機会が多い。ソファなどへは、それぞれの関係を考えて座っていただいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は飾り付け、家具、寝具は自由にアレンジして頂いている。最近では、ベットパットや寝具の持ち込みが多く見られる。	居室は、本人が居心地よく暮らせるように、家族の協力を得ながらテレビや衣装ケース、写真など配置している。利用者の個性を大切に、職員は清掃、換気し快適な環境を整えている。植木鉢を並べて水やりしながら生活を楽しんでいる利用者もあり、居心地のいい居室であることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物のドアを外したり、廊下などは、導線を広く確保して車いすでも自由に行き来できるように努めている。歩行の練習も廊下の手すりを使って行っている。		